新幹線プレス	2014年4月23日	No.164
	発行者	成 田 隆 浩
	編集者	教 宣 部
	ＪＲ東海労新幹線地本	

経営協議会シリーズ2

職場環境の改善について議論!!

地本ー幹鉄事間の経営協議会では、組合側からこの間何度も改善要求を申し入れている職場環境についても議論しました。

とりわけ、大井基地第二検修庫の老朽化問題は深刻であり、労働災害を起こしかねない状況にあることを強く指摘しました。

具体的には

- ピット内の排水が悪くヘドロが堆積している劣悪な環境
- 庫内の床面やサービスデッキ床面の凹凸による傷害事故の危険性
- 各番線両脇のグレーチングの凹凸による傷害事故の危険性
- 各番線パン点検台の蛍光灯不点灯が多いことによる検査への弊害と傷害事故の危険性
- 各詰所の空調機能の著しい低下の問題

会社側の見解は

- ◆ 耐震工事は計画通りに推移している
- ◆ 今年度の計画は、手摺の改修工事を進めているところで、階段の手摺については終了した
- ◆ ピット内の排水については、抜本的な対策が無いので当面は５Sで対応し、緊急を要する場合は企画の出動で対応している
- ◆ サービスデッキなどの床面の不備はその都度対応したい

というものでした。

組合側から、職場の環境を整えることの重要性を指摘し、リニアへの投資よりも職場環境安全対策の投資をするように主張しました。

協力会社に貸し出している施設の改善を!!

地本はこの間、出向組合員の要求を解決するためにＳＥＫ・ＳＭＴとの団体交渉を行い、職場諸設備の改善を迫ってきましたが、ＪＲ所有となっている設備については、協力会社独自では手がつけられない現実があることも明確になりました。

この問題を解決すべく、経営協議会でも協力会社に貸し出している施設環境改善についての計画を質しました。

その結果、会社側から協力会社とは定期的に打ち合わせをしていることと、問題があれば適宜改善する回答を得ました。